

パネル発表「学校飼育活動における鳥インフルエンザへの対応」

中川美穂子

西東京都市教育委員会は、市獣医師会の助言により、以下の文章を全校に配布しました。

今の鳥インフルエンザと日本の学校の鶏たちは、別の問題です

○ ウイルスの性格と日本

- ・ウイルスは同じ種類の動物の間でのみ感染が広がる
- ・鳥インフルエンザウイルスもこの性格
- ・病気の鶏の生の糞がいつも大量にある環境では、時たま人に感染する
- ・今、日本には H5N1 型ウイルスは存在していない
- ・感染の方向と危険性
 - 鳥→鳥：おきる可能性は大きい。現在の養鶏産業界の問題
 - 鳥→人：日本の学校での可能性は心配されていない。（大量の病気の鶏糞を口や肺に入れる環境がない）
 - 人→人：おきる可能性は大きい＝世界的な医学の問題で今協力して、どこかで発生したら、直ぐに封じ込める準備をしている。失敗したら社会的な大問題になるかもしれない。

○ 結論

以上から、今の日本で、鳥そのものを人が恐れる必要はない。ちょっとした注意（＊）をしていれば 充分である。

- ＊ちょっとした注意：・チャボや鶏を 水鳥のそばで飼わない
- ・糞を毎日片づける世話が終わったら手洗い、うがいをする。
- ・病気を防ぐ基本的な注意
 - (1) しっかりと世話のもとに飼い、動物を病気にさせない。
 - ・11月になったら、必ず巣箱を与えて寒さを防ぐ
 - ・毎日 糞や食べ残しを掃除して、乾燥した環境で生活させる。
 - ・朝夕の2度、動物の元気をチェックし、新鮮な餌と水を与える。（つまり「一人ではないよ」と動物を安心させること）

- (2) 普通の衛生観念を実行し、人への感染を防ぐ

- ・疲れないように しっかり食べて十分な睡眠をとる
- ・（流行期らしくなったら）人混みにでない、出るときはマスクをする
- ・外出から帰ったら（人混みにでたり、外遊びしたり、動物の世話をしたら）
- ・手洗い、うがいを励行する。

（以上）

元気なニワトリ自体が突然この病気になり、人に移すものではありません。必ず東南アジアや中国など？他の国からの、人や輸入品・輸入鳥を介した感染の原因があるわけです。

もしも、国内で発生したら、鶏が野鳥の糞で感染しないように、お散歩はやめて、小屋に入れておきましょう。また近くで発生したら、外の（病原の糞があるかもしれない）土を飼育小屋に持ち込まないように、小屋用の靴に履き替えて 中に入って世話しましょう。病原は外にあるので、鶏に移さないように注意しましょう。

高病原性インフルエンザが発生していない日本で、鶏達を現時点で隔離することは、「今 病気ではない人を、この冬にインフルエンザにかかるだろうから、今から隔離しておく」と、同じことで、科学的な処置とは言えません。

学校は地域に正しい知識を発信する場所

学校は、しっかりした科学的な冷静な視点を養いたいです。

「保護者が文句を言ってきたので、鶏たちを排除する」とが、「将来危険があるから、今までこどもたちが可愛がってきた鳥を よそにやってしまう」などの、愛情もない、しかも非科学的な処置ではなく、「動物の病気について知識のある獣医師の支援を得て、愛情を大事にして、かつ科学的な処置」を子どもに見せて頂きたいと思っています。

学校は 教育の発信場所ですから、こどもたちに科学的な対応を伝えれば、その保護者が落ち着き、やがて地域全体が落ち着くでしょう。学校は地域のセンターです。

（日本小動物獣医師会）